



「本気で考え 本気で話そう」全校集会 パート3



1月27日の全校集会は、感染症対策のためリモートで行いました。今回は第3回目となる「本気で考え 本気で話そう」全校集会。

集会では『朝のできごと』という資料から、コロナに感染してしまった「ぼく」に対して、どんな言葉をかけたらよいのか。この話で大切なことは何かを考えました。今回はリモート集会でしたので、学級ごとの話し合いとなりました。(各学級で、学年の発達段階に応じて各担任の先生が補足説明を加えながら、校長の思いや今回の話の意図を汲んで、子どもたちの思考や心情が深まるように指導しました。事前に打合せをしていなくても、臨機応変に対応し、指導できる本校の先生方は素晴らしいです！)

子どもたちは、本気で考えることができました。書いたものを読んでみるとやさしさにあふれています。コロナに感染した人に対して差別やいじめをしてはいけないということも理解しているのが分かります。

しかし大切なのは、その思いを行動に表せるかどうか、頭で分かっていることを実践できるかどうかです。思っているだけでは、相手には通じません。その人がどういう人なのかは、その人の行動でしか量ることはできません。昔見たCMで「『思い』は見えないけれど『思いやり』は見える」というフレーズがありました。自分の生き方を深く考えながら、主体的に行動できる子どもになることを目指し、子どもたちを指導していきたいと思えます。

『朝のできごと』

ぼくのクラスはとても仲がいい、自慢のクラスだ。だから毎日学校に行くのが楽しかった。

ある日、お父さんがコロナウイルスに感染したことが分かった。家族はみんな、うつっているかもしれないと言われ、ぼくも検査をした。お医者さんに「コロナウイルスに感染しています。」と言われたときはショックだった。ぼくは、しばらく、家から出ることができなくなった。ずっと家にいて、ぼくは学校のみななのことを考えた。「コロナがうつる。」なんて言われたらどうしよう。前みたいに、いっしょに遊んでくれるだろうか。

しばらくして、お医者さんに、「明日から、学校に行ってもいいよ。」と言われたときは、とてもうれしかった。でも、心配になった。

次の日。久しぶりの登校日。ぼくは、ドキドキしながら、教室に入った。教室は、いつものようににぎやかだった。けれど、ぼくの姿をみると、一瞬、静かになった。「おはよう！」勇気を出してAくんに声をかけた。でもAくんは聞こえなかったのか無視をして行ってしまった。Bさんは、ぼくの姿を見ながら、友達とひそひそと何か話をしているみたいだ。

「やっぱり来なければよかった…。」そう思っていたとき、いちろうくんが近づいてきて

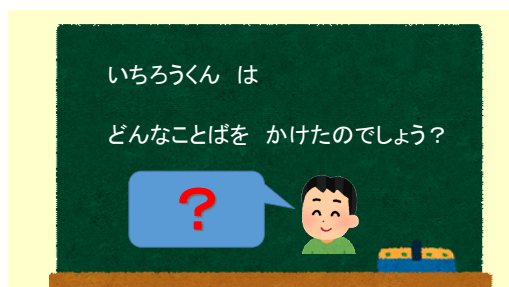
「？」

と声をかけてくれた。ぼくはうれしくて、涙があふれた。教室の中が少し、温かく感じた。

※ 福島県教委「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止に向けた道徳科の教材」より一部改作



《 子どもたちの考え 》



おはよう！ひ
さしぶりだね！
ぼくといっしょ
にあそぼう！！
(3年 きい)

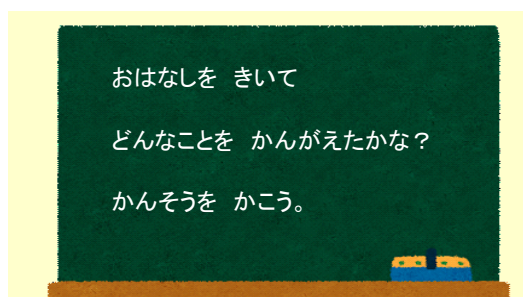
またいっしょ
にあそべるね！
心配してたよ！
(4年 ゆう)

コロナになってだいじょうぶだった？あえなくてしんぱいだったよ。ぎょうかんにいっしょにあそぼうね。(1年 れみ)

だいじょうぶだったかい？みんな心配していたよ。元気になってくれて、みんなうれしいと思うよ。だから心配しなくていいよ。
(5年 ゆうせい)

おはよう。だいじょうぶだった？しんぱいしてたよ。だって、きみは、ぼくの一番の級友だからさ。
(2年 けんと)

おはよう。学校これてよかったね。みんなとても心配していたんだよ。(6年 こうき)



じぶんもコロナになって、また学校にきたときに、こそこそばなしとか、むしされるといやだから、こそこそばなしとかは、しない。(1年 ふれあ)

わたしは学校でコロナが出てしまったら、いちろうくんのような人になりたいです。
(2年 りな)

友だちのことをいじめたりしないで、友だちにやさしくしたり、なかよくしたり、相手がよろこぶ言葉で話したり、思いやりをもって話しかけたりすることが大切だと思いました。(3年 いろは)

友達がもしコロナにかかったりしても、無視やこそこそ話をしたりしないで、心配してあげたり、その人が安心できたり、うれしくなったりするような行動をすることが大切だと思いました。(4年 あかり)

「ぼく」が学校にひさしぶりに行く時の気持ちはとてもよく分かります。私はいちろう君みたいにやさしく声をかけたり、相手を思った言葉、行動が大事だととても強く思いました。今、コロナは目の前にある中、このようなことに気づくことができ、とてもよかったです。(3年 りあな)

ぼくはうれし泣きをしたことがないので、うれしくて泣くような、どんな言葉をいちろう君がかけたのが気になりました。ぼくはこういう時に近づいてあげられるいちろう君みたいになりたいと思いました。(5年 れお)

ぼくは、いちろう君みたいな立場になった時、はげましたりしたいけど、本当にできるかどうか心配です。でも勇気を出したいです。そしてそういう時は、無視やひそひそ話とかはしたくないです。(5年 ゆうや)

自分の身の回りでコロナが出るかもしれない。そんな時は、相手を傷つけず、優しく接したいと思った。(6年 くるみ)

今、こうした状況の中、子どもたちは“このできごと”を**自分事**として考えることができました。ご家庭でも今回のテーマについて話題にしていただけると幸いです。